

新庁舎

建設に住民意見反映を

検討委員会で意見調整する



にしむら まさのぶ
西村 将伸 議員

その内容は、住民と職員のアンケート調査を基に新庁舎建設の7つの基本方針と8つの機能をまとめている。危機管理機能が発揮できることや住民の利便性を追求した庁舎で、職員数146名、議員数16名を想定して規模は3686㎡になる予定。

問 移転先も決まり、将来を見据えた新庁舎の計画がされていると思うが、防災機能を含め、規模やその中身はどのような経過で決められ、どういった工夫を取り入れるのか、計画の内容と予算を聞く。

答 武政 総務課長

スケン谷への移転を決めて3カ年になる。建設に向けて事業認可申請等の法的手続きと共に、平成25年度には黒潮庁舎建設基本計画の策定業務を進めてきた。

見の調整をしていく。また合築の件は、テナントの考え方として提案していただきたい。

新産業

地域経済に どう結び付ける 缶詰で雇用と 経済育てる

問 産業振興施策として、新産業創造事業の缶詰製造や特産品加工施設、さが道の施設や中心市街地活性化事業、及び新規就農者確保の農業公社の整備に取り組んできたが、これからの運用が重要な取り組み姿勢を問う。

答 門田 産業推進室長

缶詰は町全体に誘客効果を生み、経済効果を波及させるツールであり、缶詰を戦略的に町全体の代表商品と位置付けている。近い将来には缶詰事業が軌道に乗り、本工場を建設すれば相当の雇用を生むことになり地元の経済効果が期待される。

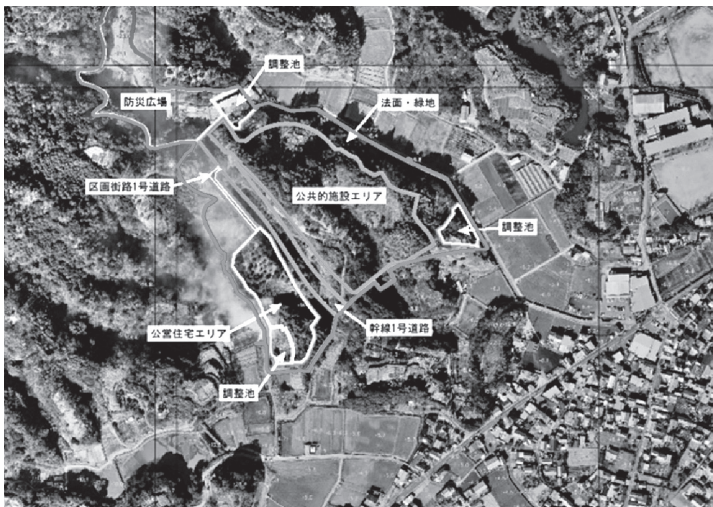
補正予算

町長2期目の 重点政策は まちづくり 新たな体制

答 大西町長

問 町長は、3月の定例会では、町長選挙のため、予算への答弁を控えていたが、今補正予算に込めた町長就任2期目に向けた思いと政治姿勢を問う。

補正は実質的には約4億円程度になる。2期目も住民対話を重視しながら、新庁舎建設や避難場所の整備、地域への経済効果を見据えた缶詰製造、全町をカバーする福祉ネットワーク等に予算付けをしている。また、まちづくりの新たな体制強化の取り組みと、合併特例期間の終了に備えた財政運営を心がけた。



新庁舎建設予定地 (スケン谷)